

夏休み「1 day ボランティア」開催事業

＜夏休み中高生向け市民活動&ボランティア体験セミナー＞

実施報告書

【開催概要】

目的：島田市における市民参加による市民のためのまちづくりの実現を目指し、新たな担い手に向けた活動参加への興味喚起を図る。主に中学生・高校生を対象とし、市民活動への体験参加や学びの場を設け、今後の活動の種を植える事業として展開する。市民の活動参加促進につなげるとともに、活動団体においても自身の活動の魅力と課題の発見につなげる。

日時：令和5年7月29日（土）～8月24日（木）の期間（夏休み期間中）

対象：島田市に在住もしくは在学の中学生・高校生

（社会貢献に興味がある中高生、人の役に立つ仕事に就きたい中高生）

参加費：無料

会場：各受け入れ団体による ※集合も同様

プログラム数：14 プログラム開催

団体数：13 団体

定員数：約 90 名

応募者数：119 名

参加者数：81 名

主催：島田市市民活動センター

（問い合わせ：島田市本通三丁目6-1 地域交流センター歩歩路内、0547-33-1550）

※事業実施：NPO 法人クロスメディアしまだ（市民活動センター中間支援業務委託）

主管：島田市地域生活部市民協働課

※ボランティアや社会貢献活動への参加は、これから中学生や高校生にとってもより身近なものになっていきます。2020年度の大学入試改革では、「主体的に学ぶ態度」が重視されることから学校側の調査書（内申書）や生徒自身が電子データにまとめる「eポートフォリオ」などでも、ボランティア経験を記入する箇所があります。

【 総括 ～中高生「1 day ボランティア」事業を通じて】

地域における市民活動やボランティア活動は、島田市の地域課題の解決における重要なファクターであり、地域に根ざし豊かに生きていくきっかけとしても大きな役割を占めている。同時に、地域を支える草の根活動としても、素晴らしい取り組みを積極的に実施している活動団体が多数ある。しかし、市民活動の各団体においては、少子高齢化、生産年齢人口の減少等の市民活動を取り巻く課題に加え、近年の新型コロナウイルス感染拡大における社会活動の停滞が大きな打撃となっており、島田市の様々な活動団体においても例外ではない。

島田市市民活動センターにて令和4年度に実施した市民活動調査（アンケート）によると、「取り組みの課題」の問いに対して最も多かった回答は「会員の減少」（64・8％）であった。昨年度の調査から10.1ポイント増加しており（令和3年度54.7％）、元々会員の確保に悩む中、ここ2年間のコロナ禍の影響で会員の減少に悩む団体は今後さらに増加していくことが予想される。

そんな中、市民活動センターにおいては、令和2年度に実施したボランティアへの意識調査を経て、令和3年度に夏休み「1DAY ボランティア」を初開催した。主に中学生・高校生を対象とし、市民活動への体験参加や学びの場を設け、今後の活動の種を植える事業として今年度第3回目を展開した。

今年度参加した中高生を対象としたアンケート結果からは「今後地域や社会を良くするための活動をしていきたいと思うか？」の問いに対しては「思う」という回答が96％となり、「参加前よりも「ボランティア」や「市民活動」が身近に感じられるようになりましたか？」の問いに対しても、「はい」が100％であるなど、ボランティアや市民活動に触れるきっかけ作り、今後も関わり続ける土台作りとしては一定の効果を出すことができたと考えられる。

今後さらに市民活動を活発化していくためには、多くの市民が意識的に島田の将来を見据え、「自分たちのまちは自分たちの力でなんとかしよう」という市民自治意識を醸成させていく必要があり、同時に自ら主体的に地域課題の解決やまちづくりに取り組む市民活動団体を支援していく場として、市民活動センターを機能させていく必要がある。

市民活動センターにおいては、中長期的な視点から同事業を通じ、市民活動団体における「会員の減少」への具体的対応としてボランティア体験事業を開催し、これからの未来の担い手に向けて市民活動の意義や楽しさ、魅力を感じてもらい、活動団体やNPO法人などの参画に向けた入口を整備したいと考える。同時に活動団体と学生等との橋渡しやコーディネート、未来に向けた地域活動の担い手づくりに努めていきたいと考える。

NPO 法人クロスメディアしまだ
理事長 大石歩真

【「1 day ボランティア」事業スケジュール】

時期	内容	備考
4月	・実施内容の決定	
	・受入団体募集方法の決定 ・受入団体への通知 (WEB サイト掲出、登録団体へ郵送)	
5月	・受入団体の募集 (5月1日～20日) ・受入団体の登録 ・受入団体のプログラム調整・決定	
	・参加者募集方法の決定 (サイト、チラシ等作成、広報しまだ手配)	
6月	・参加者の募集の開始 (～7月5日) ※R5 年度実績 ★チラシの配布 (学校関係 6月16日) ★広報しまだ掲載 (6月15日号) ★地域情報誌掲載 (6月25日号)	
	・事前ガイダンス内容の決定	
7月	・参加者の申込締め切り (7月5日) ・参加者の決定 (7月10日～15日) ・決定通知の発送 (決定通知、事前ガイダンス 開催通知、保護者同意書の発送)	<事前ガイダンス> 7月26日 (水) 13:30～15:30 地域交流センター歩歩路 多目的ホール
	・事前ガイダンスの開催	
8月	<u>「1day ボランティア」体験セミナー開催</u> ・各団体にて受け入れ ★受付、写真記録、実施内容確認	
	・参加者アンケート調査の実施 (報告レポートの提出) ・終了証書の郵送	
9月	・受入団体アンケート調査の実施	
10月	実施報告書	

【活動体験プログラム一覧】

日付	時間	活動名	団体名	募集 人数	決定 人数
8/1(火)	8:00~16:00 内 の2時間程度	夏休みひだまり教室	Study Like Playing	5名程度	3
8/18(金)	13:30~15:30	「聴覚障害」を知って、 「筆談」や「要約筆記」 を体験しよう!	島田市要約筆記サークル 「うさぎ」	8名	8
8/9(水)、 8/17(木)、 8/22(火)	9:45~16:00	放課後等デイサービス で障がい児の支援体験	認定NPO法人フリースペ ース・うえるびー	各2名	6
8/24(木)	13:30~16:00	障害を持つ人と一緒に 本格的にソーイングを 体験しよう!	ケア研究所	2~3名	2
7/29(土)	8:30~14:30	やってみよう!こども 食堂中高生スタッフ	NPO法人しまだつながり研 究所	5名	5
8/3(木)	9:30~11:30、 13:30~16:00	力を合わせて五和会館 をリフレッシュしよ う!	島田市金谷生きがいセン ター	各5名	10
8/1(火)	10:00~13:00	駄菓子屋さんの夏祭り を盛り上げよう!	駄菓子屋コミュニティ「な かみぞさんち」	5名	3
8/13(日)	13:00~15:00	インクルーシブ体験を してみよう!	インクルーシブスポーツ クラブ	何人 でも可能	9
8/9(水)、 8/10(木)	午前または午後 のどちらか	子ども向けアートスク ールの手伝いをしよう	atr da mama	各2名	7
8/8(火)	9:30~11:30	ベルマークを仕分けて 被災地を支援しよう!	島田市社会福祉協議会	15名	9
8/9(水)、 8/10(木)	8:30~16:00	人生の先輩たちと交流 しよう!デイサービス でのボランティア	島田市社会福祉協議会	北部1 人、川根 各2人	1(北部)
8/2(水)	9:30~11:30	アーティストと一緒に 作品メンテナンスをし よう!	UNMANNED 無人駅の芸術祭/ 大井川	5人	2
8/9(水)	9:30~11:30	アート回廊の道の整備 をしよう	抜里アート回廊協議会	5名	4
8/1(火)	13:00~21:00 内 の3時間	大井神社で夏祭り縁日 のお手伝い!!	大井神社 宮美殿	5名	5

【事前ガイダンス開催】

○開催概要

- ・日時：7月26日（火）13:30～15:00（受付開始 13:00～）、運営者入り 12:30
- ・会場：島田市市民活動センター（地域交流センター歩歩路 多目的ホール）
第一部（ガイダンス）：ミニ講座「ボランティアって何だろう」、事業の説明等
第二部（顔合わせ）：団体と参加者との顔合わせと取り組み内容などの説明

○当日の様子



【1Day ボランティア／当日の様子】 〇8/1(火)／夏休みひだまり教室／Study Like Playing



〇8/18(金)／「聴覚障害」を知って、「筆談」や「要約筆記」を体験しよう！／島田市要約筆記サークル「うさぎ」



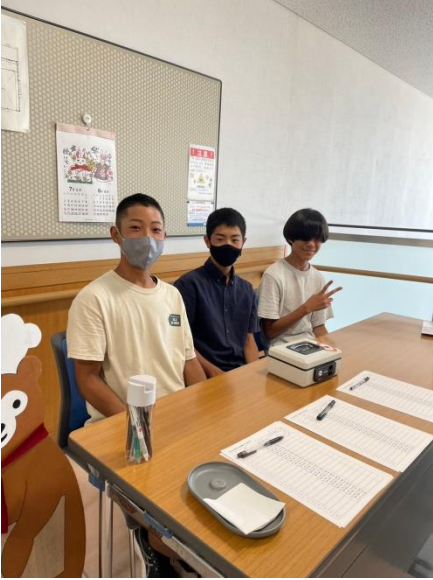
○8/9 (水), 17 (木), 22 (火) /放課後等デイサービスで障がい児の支援体験/認定 NPO 法人フリースペース・うえるびー



○8/24 (木) /障害を持つ人と一緒に本格的にソーイングを体験しよう!/ケア研究所



〇7/29 (土) / やってみよう！こども食堂中高生スタッフ/NPO 法人しまだつながり研究所



〇8/3 (木) / 力を合わせて五和会館をリフレッシュしよう！ / 島田市金谷生きがいセンター



○8/1 (火) / 駄菓子屋さんの夏祭りを盛り上げよう! / 駄菓子屋コミュニティ「なかみぞさんち」



○8/13 (日) / インクルーシブ体験をしてみよう! / インクルーシブスポーツクラブ



○8/9(水)、8/10(木) /子ども向けアートスクールの手伝いをしよう/atr da mama



○8/8 (火) /ベルマークを仕分けて被災地を支援しよう!/島田市社会福祉協議会



○8/9 (水) / 人生の先輩たちと交流しよう！ デイサービスでのボランティア / 島田市社会福祉協議会



○8/2 (水) / アーティストと一緒に作品メンテナンスをしよう！ / UNMANNED 無人駅の芸術祭 / 大井川



○8/9（水）／アート回廊の道の整備をしよう／抜里アート回廊協議会 ※雨天の為、中止

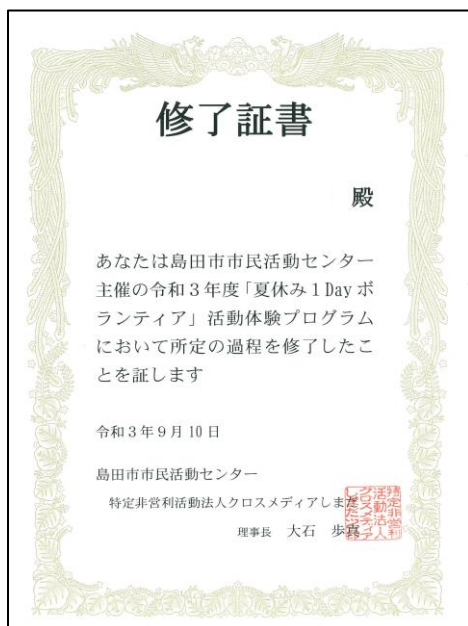
○8/1（火）／大井神社で夏祭り縁日のお手伝い!!／大井神社 宮美殿



【その他】

○終了証書

- ・終了後、参加者は「レポート」および「アンケート」を提出
- ・レポート提出を確認したのちに、終了証書を郵送した



【参加者より活動レポート（※抜粋）】

- ・ ボランティア活動体験の終了後に、参加者は「活動レポート」を提出する
- ・ 提出方法は、WEB フォームもしくは用紙での提出となる（64 件の回答）
- ・ 「活動レポート」の原本は受け入れ団体へ郵送を実施する

<高校1年生「ベルマークを仕分けて被災地を支援しよう！」>

私は将来学校の先生になって海外青年協力隊に入りたいと思っています。そのためこの活動はこの夢に近付けるのではないかと思います。ベルマークを仕分けることは大変だったけど、被災地の方々を支援できることがわかり、今後もベルマークを探していこうと思うことができました。ベルマークの方にもペットボトルキャップやいれぱなどでも多くの方を支援できることを知り、中には発展途上国への支援につながっているものもあるということに驚きました。ベルマークの仕分けで特に大変だったのは、点数ごとに枚数を数えて点数を計算しなければいけないということです。

私はこの活動をするまで、全部合わせた枚数と点数だけを計算すればいいのかな？と思っていました。だからこの活動をしたことで、仕分けの大変さをより実感することができました。

私はこの活動だけでなく件で募集されている被災地研修にも参加したいと思っています。だからそこでも夢に近付けられるように、災害のことを沢山学び、感じていきたいと思っています。

<中学2年生「こども向けアートスクールの手伝いをしよう」>

話すことの大切さについて

私はこのボランティア活動では人との会話が重要だと感じ、そこからたくさんの学びを得た為、人とのコミュニケーションや小さな子との接し方について書こうと思いました。

私はもともとボランティア活動に関心があって、親の仕事であるハンドメイド雑貨づくりの手伝いや、イベントでそれらの雑貨をきれいに並べたり、イベントの他の出店者のみなさんのテントの設置の手伝いをするがありました。イベントではバスボムづくりをしている子供たちをよく観察して手をふいてあげたり、バスボムの粉の量をはかっているようすを見守ったりするなど、子供のめんどろを見ること为中心でした。私は、最初は子供たちとどうゆう距離感で話すか、どうサポートすればいいか心配していたけれど、最終的には子供たちの輪にもなじめて、サポートしつつも同じ目線で立っていることができてよかったです。また今回のボランティアでは3年生の先輩とともに子供たちのようすを見たのですが、最初はどう接するのか分からなかったけれど、好きな温画などの共通の話題で意気投合し、最後まで和気あいあいとした雰囲気、子供たちのめんどろを見つても会話と活動を楽しめたためよかったです。

この経験により私は人の話を聞くこととだれとでも話すことの大切さを感じました。私ははじめ子供たちとの距離の取り方をつかめずにいたけれど、最終的には子供たちが言ったことに対して行動することが中心となっていたし、子どもたちには積極的に話しかけてみるようになっていました。ここから人の話を聞く、だれにでも話しかけてみることは人と仲良くなることにおいてとてもたい切だと思いました。私はこの経験をして私はだれとでも話しかける、よく相手の話をきくことを大切にしていきたいと思いました。これは学校などの日常生活にもいえることだと思いました。またボランティアではより人の役

に立つからこそその快感を感じることができて嬉しいし、相手もうれしいという Win Win な活動であるということを感じ、それらもやっていきたいと思いました。特に私はかんきょうに関することに対するボランティアをしてみたいと思ったためにこれからも海岸清掃などをしていきたいと思いました。

＜高校3年生「「聴覚障害」を知って、「筆談」や「要約筆記」を体験しよう！」＞ 聴覚障害者の方々の話から考えたこれからの自分

まず、僕は将来、デザイン系の仕事に就くことを考えており、その中でも、製品デザインに携わることを考えています。デザインされた物は、健常者のことだけ考えてデザインされているのではなく、万人に使ってもらえるように、ある程度広い視野でデザインする物だと思います。そのため、何かしらの障害を持つ人たちは、どのような場所に不便さを見出しているのかを知り今後になかすべく参加しました。

プログラムで特に印象に残ったことは、要約筆記のスピード感と、難聴の種類です。難聴にも種類があり、高い音が認識しにくい種類や、音自体が認識しにくい種類があることを知りました。次に要約筆記の体験をさせていただきました。その中でもノートテイクは、喋るスピードと同じように要約しながら書いていくもので、一回行った程度では、全く追いつくことができませんでした。

参加前、僕の難聴の考え方は、音が聞こえない、だから大きな声で喋ってあげれば良いという考え方でした。しかし、この考え方は浅はかであり、口の動き、表情が大切であることを知りました。祖父と喋る時、いつも他の人より少し大きめの声で喋っていたので、祖父の難聴の種類にもよりますが、これからは適した形で喋っていきたいと思います。

この活動を通して、要約筆記の不便さに気づき、機械に任せてしまえばと思いました。果たしてこれを機械などに完全に任せて良いのかという疑問が浮き上がりました。デザインでは、産業革命からの機械化に頼りすぎたがために感情の交換が少なくなり、失われてきた人間性の回復を重要視するデザインが最近の課題だと思っています。難聴者の方も字は生きています。そのため、要約筆記を機械などに完全に任せてしまうのは、アナログの良さである感情を直接交換できるという点が失われてしまい、人との関わりを絶ってしまうとも考えられるのであまり良い考えではないと思いました。これから、デザインについて学び、物を作る際、この経験は役に立つと思います。しかし、万人が使いやすいと感じる物をデザインするのは、かなり難しいと感じました。ですが、デザインを考える上での主軸を健常者ではなく障害者にしてみれば、見方が変わり、新たなデザインが浮かぶと思います。そのためには、もっと障害者の方々の今を理解する必要があります。なので今後もこういう体験をする場所があれば、参加し、現状把握して、目指す万人が使いやすいと感じるデザインに向けての糧としていきたいです。

＜中学2年生「夏休みひだまり教室」＞ 人と関わることの大切さを知った夏

僕がこの活動をしてみようと思った理由は将来について考えたからです。なぜなら、中学2年生になり、将来のことも少しずつ考えて行かなければならないと思い、自分がどのような仕事をしたいか考え

てみた結果、「子供と関わることができる仕事に就きたい」ということでした。ですが、子供と関われる機会は少なく、友人や先輩後輩だけになってしまいます。そこでこの活動を見た時に、「この活動に挑戦してみたい」と思いました。

ですが、いざ実際に子供と関わってみると、教え方や口調などどのように接すればよいか分かりませんでした。しかし、代表の松浦さんが「頑張ったことを褒めて伸ばす」と言ってくださった子を思い出して、2時間という短い間でしたが、良い体験ができました。

今回の活動を通して、人と関わることの楽しさ、大切さを学ぶことができました。今回の社会貢献で地域がより良くなったと思います。社会貢献という取り組みづらいイメージがありましたが、自分ができることから行っていきたいと思いました。

<高校3年生「インクルーシブを体験してみよう！」>

以前、知的障害者の方との交流をした際に、障害の有無も関係なく楽しくちぎり絵をして、また交流してみたいという思いがあったので参加しました。インクルーシブスポーツとは何をするのだろう、という興味もあったので沢山あるなかから選びました。

まずは、みなさんの前で自己紹介をしました。思っていたよりも多くの方がいましたが、みなさんとともにこやかで拍手をして暖かく迎え入れてくれて、とても嬉しかったです。

最初の活動は、ポッチャです。私は初めての体験でした。見たことはあったけれど、やったことはなかったのが楽しみでした。ポッチャは年齢関係なく、誰でも楽しめるスポーツでした。最後まで何があるか分からない、ドキドキワクワクするスポーツで、みんなで楽しむことができました。

次は音楽活動をしました。どんな音楽になるのかな、と思っていたらみんなが好きなように楽器を演奏して、ボーカルもいて、とても嬉しかったです。暖かい雰囲気、みんなが優しい目をしていてとても印象的でした。

最後は釣りでした。釣りを初めてする子もいて、難しい所もあったけど、最後にはみんなが投げられていて嬉しかったです。

最初はどんなクラブなのだろうと緊張していましたが、みんなが障害の有無も年齢も性別も関係なく楽しむ姿を見て、私も一緒に楽しむことができました。個性溢れるみなさんで、誰ひとり置いていかずに全員で楽しむ姿が心に残りました。

これからの生活の中で、インクルーシブ体験などのボランティアがあったら、また参加してみたいです。

<高校3年生「放課後等デイサービスで障がい児の支援体験」>

私が今回のプログラムに申し込んだきっかけは、教師になりたいという夢があるからです。教師と言っても種類は様々ですが、特別支援学校教諭に興味を持ちました。うえるびーさんの存在は、親戚が通っていたこともあり、知っていましたが、どんな活動をしているかは詳しく知らなかったのが、今回のプログラムに参加させていただきたいと思い、申し込みました。

プログラムに参加しての感じたことは、それぞれのコミュニケーションの取り方があるということです。うえるびーさんの利用者さんは、お話をするのが困難な方、食事の介助が必要な方、ほとんど自分で

きる方など様々な方がいました。時間がかかってもそれぞれの方に向き合うことがとても大切だと感じました。私が訪問させていただいた日はキャンドルづくりの体験があり、その時間から活動をさせていただきました。

最初は緊張してどのようにして良いかわからなかったが、活動をしているうちにたくさん話をしたりして楽しくなっていました。その後のフリータイムは、1人の男の子と英語と日本語が両方載っている本を読みました。男の子が日本語で本を読んだあと、私が英語で読むようにして本を読んでいた。彼は小さな声で自分が知っている感じの読み方や、豆知識を私に教えてくれました。私は英語の単語をいくつか彼に教えたのですが、帰りまで覚えていてくれてすごうれしかったです。短い時間だったけど、いろいろな方が私と話をしてくれたりタッチをしてくれたので、すごうれしかったです。

プログラムを通して、やはり特別支援学校教諭など、障がいを持った方と触れ合う仕事をしたいと思いました。電車にのっていたり、外を歩いていたりと白杖を持っている方や車いすに乗っている方が困っているところをよく目にします。私は知識が浅いのでどうしてよいかわからず、いつも見ているだけです。私みたいな人はたくさんいると思います。しかし、今回の体験を通して、自分で調べたり、ほかのプログラムにも参加して助けられるような人になりたいと思いました。だからこのようなプログラムにもっと多校の人が目を向け、参加して考えるべきだと思います。私の身近にも障がいを持った方への偏見を持った人がいます。そのような偏見は無くなるべきだと思います。私1人で変える事は出来なかもしれないが、これから自分で積極的に行動して、たくさんの人と関わり、そのような壁がなくなると良いと思います。今回学んだことを生かせるような生活を送っていきたいです。

うるびーのみなさま、今回は貴重な体験をさせていただきありがとうございました！

<中学1年生「大井神社で夏祭り縁日のお手伝い！」>

僕がこのボランティアに参加した理由は、自分にできることを知りたかったからです。中学生はまだ大きなことができず、ボランティアも自分に何ができるのかわかりませんでした。でも祭りの手伝いだったら自分でもできて、さらにしっかりと人の役にたつことが出来ると考え、ボランティアに参加しました。ぼくは今までボランティアに対して、どうしても深い理由（優しさや同情）」があって参加しているとは思えませんでした。例えば募金では、小学生では「募金をしたら何かもらえるからやる」という印象が強く、ボランティアに対して（とても言い方が悪いですが）「やってあげている」か「結果自分に返ってくるからやる」というイメージがありました。でも今回の手伝いを通して（達成感があり、さらにやっけていて単純に人が喜んでることがうれしかったため）ボランティアは「実物(募金のお金)」よりも「気持ち」を送ることだと気づきました。

ボランティアが気持ちを送ることなのだとしたら、今回の行事や募金だけでなく家での手伝い、もっといえば世界中の他人を思う気持ち全てが「ボランティア(精神)」なのだと思います。

今回僕が学んだこととして「ボランティアとは何か」以外に「コミュニケーション」について学びました。近年は新型コロナウイルスやSNSにより人と人が実際に会ってコミュニケーションをとることが少なくなったと感じます。今ではそれが普通で疑問を感じることはありません。しかし祭りを通して改めて、人と人の対話によるコミュニケーションを感じてみると、画面を通して人とつながることとはあきらかに違うと感じました。実際に会ったほうが相手の表情なども見ながらコミュニケーションをとることができます。またコミュニケーションをとるときには相手のことを考えます。それは、他人を思う

ボランティア精神と似ていると感じました。コミュニケーションをさらに深く考えてみると、今回ぼくが行ったボランティアはスーパーボールすくいだったため接客の相手は主に自分よりも年下の人でした。しかし、これが全ての年齢の人が相手だったら話し方にもさらに気をつけなければならなくなるので接客作業は思っていた以上に難しいと分かりました。ぼくに作業について教えてくださった人は小さい子に接するときにはその子が欲しがっていたスーパーボールをあげるなどのサービスをしていて、どのような人にはどう接するのかということを考えていきたいと思いました。ただし、それに決まりや正解はないと気づきました。スーパーボールすくいは祭りの中などでしか見かけないけれどその働き方やコミュニケーションの取り方というものは花屋などのお客さんとのコミュニケーションが大切な仕事など似ていました。

今回のボランティアは3時間というとても短い時間でしたが、そこで学んだことはたくさんありました。これから将来仕事をするときなどには、今回学んだことを活かしたら良いと思います。

【参加者アンケート調査（集計）】

<概要>

調査方法：参加者向け事前ガイダンスにて依頼（7月26日）

回答：①郵送にて回答（記入の上、送付）

②持参にて回答（記入の上、市民活動センター窓口へ提出）

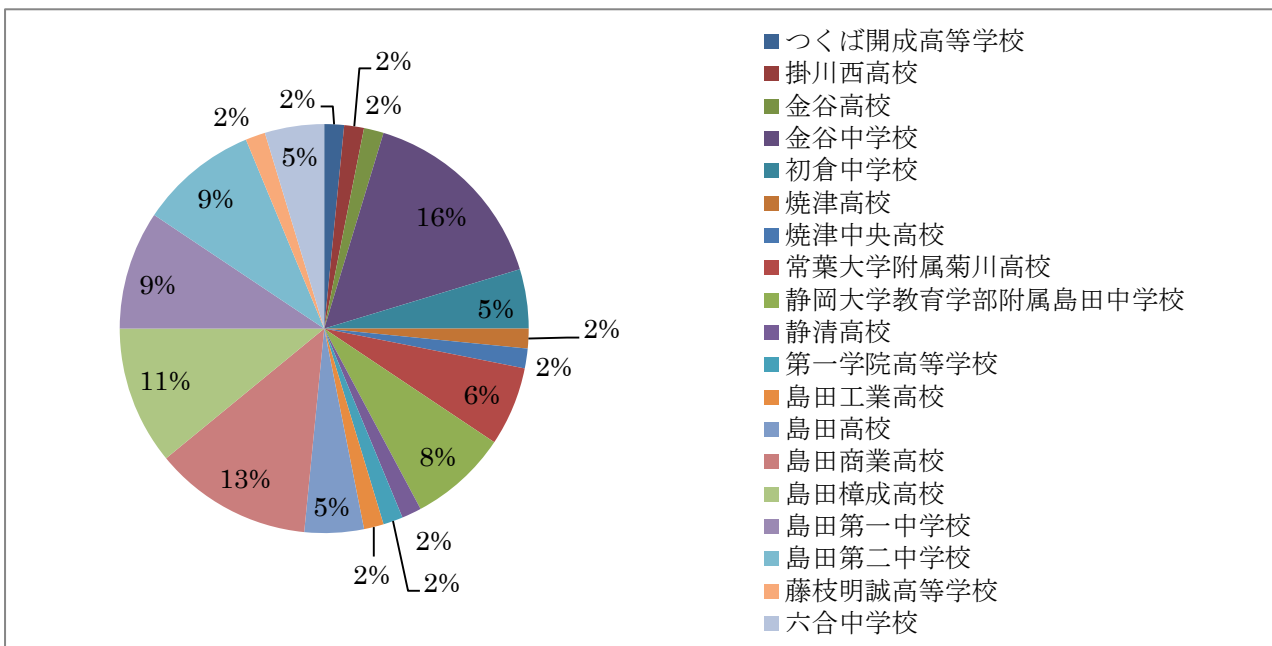
③WEBにて回答（QRコード、市民活動センターHPよりフォームへ回答）

提出期限：令和5年9月16日（土）

発送数：81 回答数：64（79.0%）

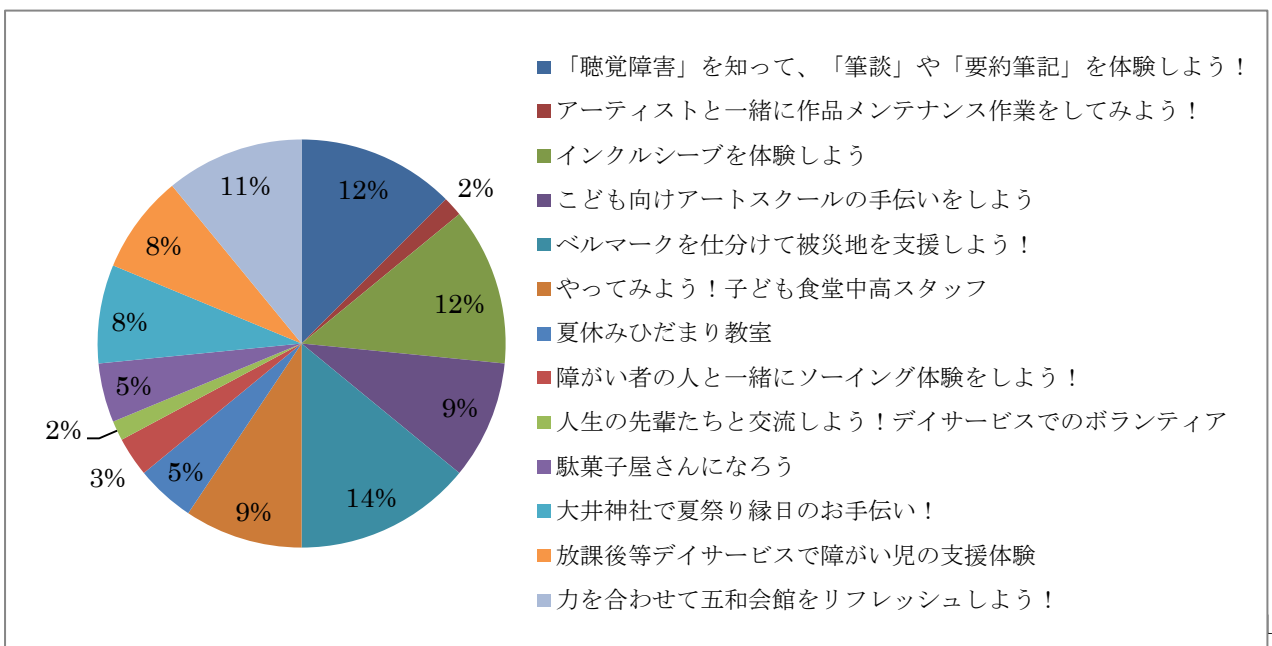
①学校別 参加者

64件の回答



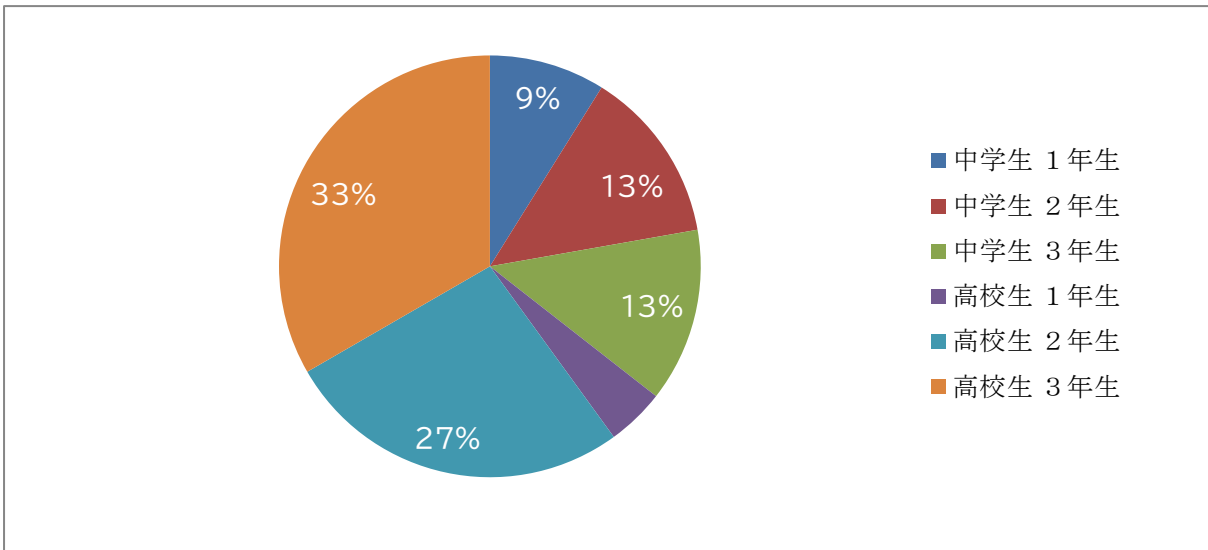
②学年別

64件の回答



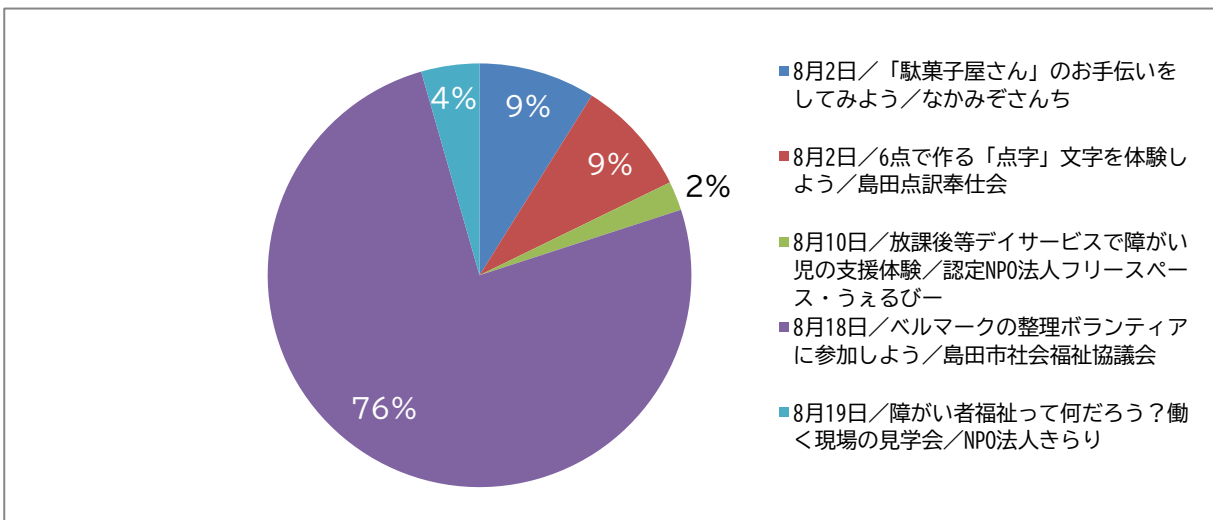
③学年

64 件の回答



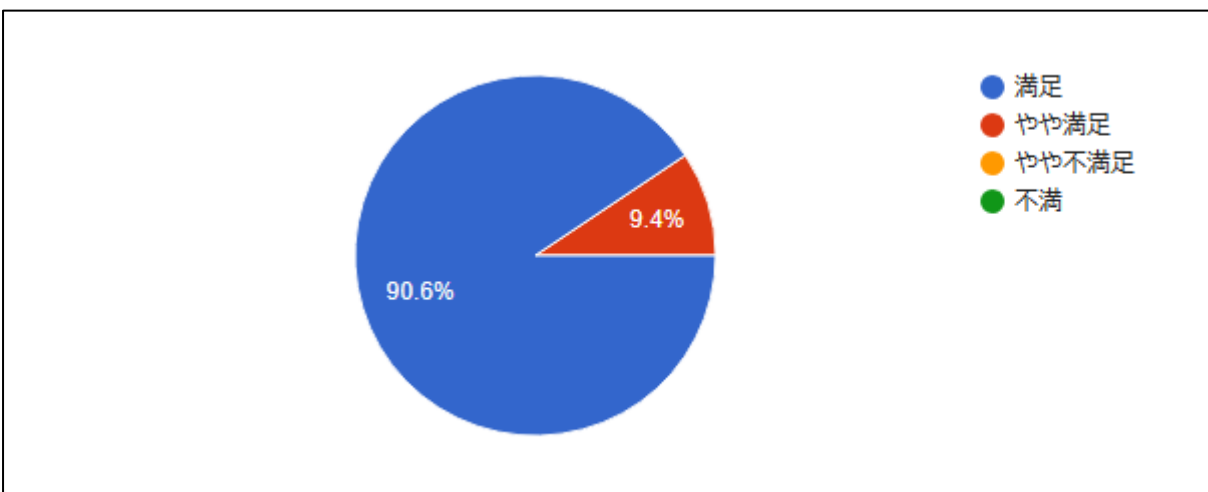
④参加したプログラム

64 件の回答



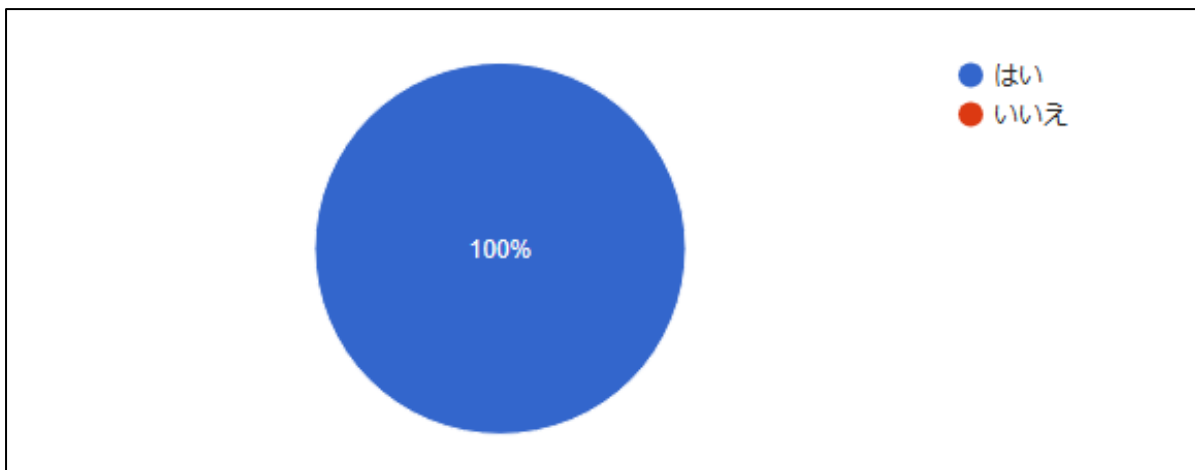
⑤参加してみていかがでしたか。

64 件の回答



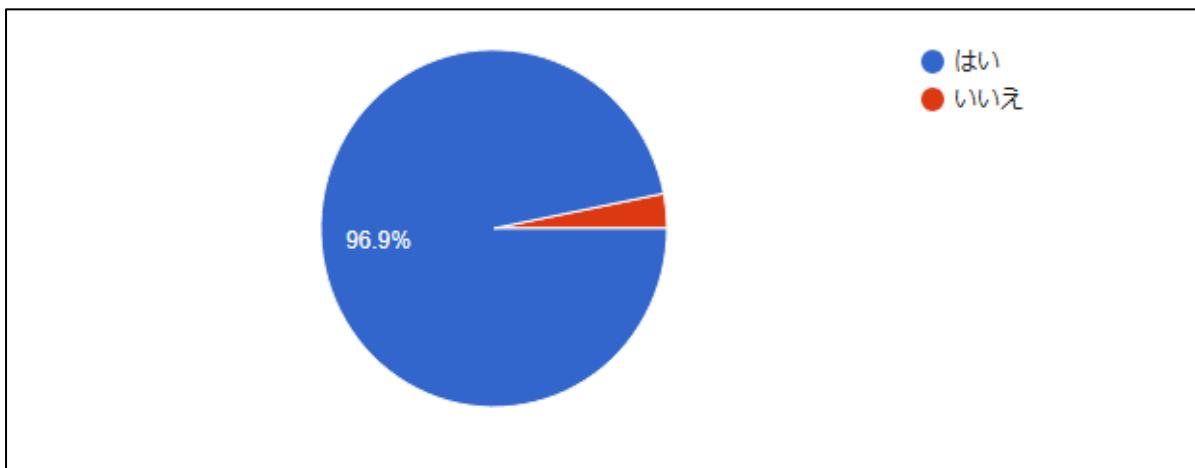
⑥参加前よりも「ボランティア」や「市民活動」が身近に感じられるようになりましたか？

64 件の回答



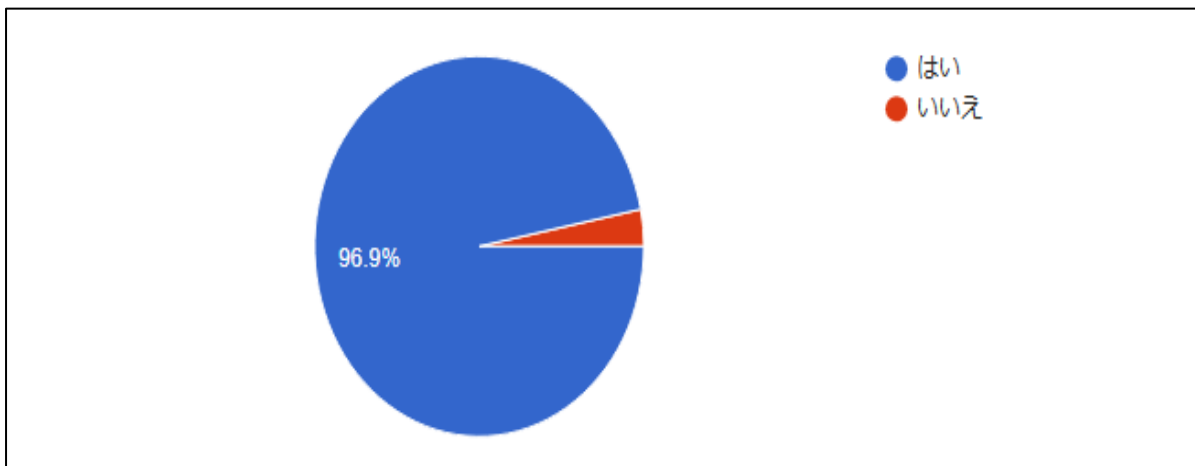
⑦今後、地域や社会を良くするための活動をしていきたいと思いませんか？

64 件の回答



⑧友人や後輩など他の生徒に当事業への参加を勧めたいと思いませんか？

64 件の回答



⑨当事業に参加した動機やきっかけについて教えてください。

64 件の回答

- ・ボランティア活動は幅広い世代の人と交流できて、普段できないような体験ができるので、参加してみようと思いました。あと、家からとても近く、たまに私も行くので、関わりがあったからです。
- ・お母さんに、「夏休み時間があるからせっかくならボランティアとかどう？」と、進められたから。
- ・学校でボランティアを推奨していて、大学進学に役立つということからボランティアをやろうと思い、人と楽しくコミュニケーションを取れるボランティアをしようと思ったのがきっかけです。
- ・学校や先生から聞いたから 他 3 件
- ・将来食に関する仕事に就きたくて、どうすれば食でみんなを笑顔に出来るのか知りたく応募した。
- ・子ども食堂がどんな活動をしているか気になり、やってみたかったから。他 2 件
- ・地域の竹林について興味があり参加した。
- ・親からこの 1Day ボランティアがある事を教えてもらい、学校が夏休み中のボランティア活動への参加を勧めていて良い機会になると思ったから。
- ・アルバイトや仕事に役立てるため接客など体験したかったからです
- ・もともと夏休みにボランティア活動に積極的に参加しようと思っていたので、地域の役に立つことができる、今回のボランティアに参加しました。
- ・1年生の時にも参加させてもらい楽しかったので今回も申し込みました 他 3 件
- ・人の役に立つ事、人を助ける事をしてみたかったから 他 9 件
- ・来年の受験に向けて役立てたかったから
- ・家の近くでよく知っている場所だったから
- ・家族・友人からの誘い 他 7 件
- ・将来看護の仕事に就きたいので人と関わられるようなボランティアはないかと考えたのがきっかけ
- ・障子の張り替えは初めての体験でどういう感じなのか知りたかったのと楽しそうで興味があった
- ・親戚に障がいを持っている人がいるからです
- ・デザイン学部に行きたいと考えており、デザインのための健常者以外の現状を把握したかったから。
- ・"人の役に立つ事が元々好きだから参加しました。また島田市でボランティア活動がこんなに活発にやっているのは初めて知ったので興味を持ち、私もボランティア活動してみたいと思いこの事業に参加しました。
- ・自分はどんな仕事してみたいかと考えてみた時に、「子どもと関わる仕事がしてみたい」と思い、この事業に応募してみようと思いました。
- ・何時もは食べる側だけど作る側として経験がなかったのでやってみたいと思い参加しました。
- ・小さい子供と接するのが好きで、また管理栄養士になりたいというのもあり、子ども食堂に興味を持っていたから。
- ・知的障害者の方との交流をした事があり、また交流してみたいと思ったので参加しました。
- ・ベルマーク収集について興味があったからです。また地域のボランティアをやってみたいと思っていました。他 2 件
- ・要約筆記というものは何だろうと興味がわいたのと、今後でもそのような人と接するときどう寄り添うのがいいのかと学びたいと思ったからです。
- ・将来教育関係の仕事につきたいとっていて、障がい児の教育にも興味があったため 他 1 件

- ・ボッチャができて社会貢献ができるというところにひかれた
 - ・活動場所が母校だったから。
 - ・裁縫がもともと好きで、少しでも障害を持っている人の力になればいいなと思ったからです。
 - ・進学するにあたってボランティアの経験を積みたかったので、友人と一緒に夏休みにできるボランティアに参加しようと考えたのがきっかけです。障害者の方と交流できる機会を大切にしたいと考えこのプログラムを選びました。
 - ・将来社会に出ていくにあたって必要なことを学びたいと思ったから
 - ・夏休みにボランティアをしたいと考えており、たまたま教室掲示に夏休みボランティアがありました。そこでインクルーシブというものを初めて聞きましたが、興味を持ち参加を決めました。夏休みという時間が沢山ある時に少しでも誰かの役に立つことをしたいと考えたから。
 - ・島田市に貢献したいと思ったからです。 他2件
 - ・以前にお客さんとしていったことがあったから。
 - ・ボランティアとはどういうものなのかについて、改めて考えてみたくなったため。
 - ・ボランティア募集の種類が豊富で、日程も空いていたため自身の成長のためにも参加してみようと思った。
 - ・障害がある子供となかなか関わる機会がないため、1度は関わる経験をしてみたいと思ったから障害のある方とも仲良く話したいと思ったため、参加させていただきました。
 - ・障害者と一緒にソーイングというところに興味をもったから。普段、そういうことがないので夏休みに参加してみたいと思った。
 - ・このような体験をするのは貴重だと思い、自分から参加しました。
- 今までボランティアをすることがなかったので、中学3年生の思い出として参加したかった。他2件昨年1Dayボランティアに参加するか迷っていたのと同時に、多世代と関わる機会が自分から探さないと無くなってきたので参加させて頂きました。"